

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程の理念・目的と目標

1) 教育理念・目的

広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療・介護・福祉に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野相互の連携の重要性が理解できる資質の高い保健看護職者と健康関連専門職者を育成する。

また、本学保健看護学部の使命である「地域に根ざした保健看護学の考究」の推進者として、地域の人々の健康の保持増進、疾病・障害に伴う諸問題を含め、倫理的・科学的な研究に対する意欲をもち、自律して質の高い計画を立案・実行し、社会のニーズに柔軟かつ豊かに対処することができる健康づくりに関わる専門職業人としての能力の向上をめざす。

2) 教育目標

本学大学院保健看護学研究科においては、専門性を軸とした領域をおきながらも、それらがカリキュラム上、また研究上でも「健康」をキーワードとして有機的に相互に影響し合い、柔軟に連携していく学際領域を構築することを目標としている。

- (1) 地域の人々が共に自立した生活が営めるように、解決すべき課題に対し地域の保健医療機関と協力して取り組み、地域の健康文化の形成と発展に貢献できる能力を育成する。
- (2) 各看護専門分野において、質の高い看護を目指し、他の医療専門職者と相互に連携を図り、それぞれの職務を果たし、チーム医療を推進し、高度な専門職業人として協働できる能力を育成する。
- (3) 保健看護分野を基礎から支える研究に取り組み、その学問の発展に貢献できる高度な専門的知見の集積や技術・開発を推進できる人材を育成する。
- (4) 社会的な健康問題に関する対応に積極的に参画し、教育や政策の場でも新たに改革する者として、行動を起こせる能力を育成する。

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士後期課程の理念・目的と目標

1) 教育理念・目的

広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野における健康づくりに寄与できる教育・研究者を育成し、地域における人々の健康に貢献する。

2) 教育目標

本研究科博士後期課程では、修士課程（博士前期課程）での教育を基盤として、高等教育研究機関において新生児から高齢者まであらゆるライフステージにある全ての人や家族、地域において、健康問題の理解や援助、もしくは健康の保持・増進について考究できる教育・研究者ならびに健康問題を解決し、健康の保持・増進や生活支援方法を開発・推進していくために保健・医療施設等において教育・研究を担うことができる教育・研究者を育成し、人々の健康に貢献する。

したがって、教育目標は社会的な健康に関する問題に積極的に参画し、保健看護学の研究に取り組み、教育や保健・医療の場でも健康問題を解決し、健康の保持・増進や生活支援方法を開発・推進していく能力を育成することとする。

現在の保健・医療の高度化や生活環境の複雑化と多様化が進行する中で、人々の多様な健康課題を解決し、よりよい生活習慣の確立や疾病予防、生活の質（Quality of life：QOL）を高めるためには、より豊かで柔軟な発想と科学的な根拠に裏付けられた生活支援方法の開発と推進がより強く求められるようになってきている。従来の保健・医療の現場では、ともすれば経験に基づいた見識や理論に基づいて保健・医療がなされることもあった。その反省から科学的検証に基づいた保健・医療を目指し、根拠に基づいた医学・看護（Evidence based Medicine (Nursing)：EBM(N)）の手法が取り入れられるようになった。保健看護学では、状況などが刻一刻と変化する個々の人間を扱い、心と体をもった全体として理解する、すなわち人を包括的に捉えることが重要であるが、経験や勘に頼ることない EBM(N)に基づく考え方の視点も修得する。さらに、保健・医療のニーズに対して研究成果を還元し、保健・医療の現場において健康づくりが推進できるよう、地域の保健・医療に対する深い知識と高度の研究能力を備えるようにする。